

# Disc Review



「ブロッサム」  
アマンダ・ブレッカー

ユニバーサル (area eazurra) UCCJ-3025  
¥2,800 5/18 SHM-CD

■1.花 2.ソニー・ファー・アウェイ 3.目を閉じてごらん 4.ウィル・ユー・ラヴ・ミー・トゥモロー 5.スウィート・ベイビー・ジェイムス 6.イッツ・トゥー・レイト 7.寂しい夜 8.遠い音 9.後の言葉の優しい響き 10.ナチュラル・ウーマン 11.君の友だちもアマンダ・ブレッカー(vo)、ジェシー・ハリス(g.prod)、アンソニー・ウィルソン(g)、ラリー・ゴールドフィングス(kb)、リー・スクラー(b)、ラス・カンケル(ds)

## 「つづれおり」発表から40年のキャロル・キングと、ジェームス・テイラーへのトリビュート作

キャロル・キングとジェームス・テイラーへのトリビュート・アルバムというスタイルで彼女の新作が登場である。今年の3月がキャロルキングの「つづれおり」発表40周年だそうで、何とこのアルバムに参加していた人までバックに名を連ねるといふ豪華版である。そして並んでいる曲目はお馴染み度高し。肝心の彼女の歌は、あれ、ここまでコケティッシュだっけ?と思うほどに可憐でキュート。本作でのジャズ度は高くはないが、このふたりから大きな影響を受けたという彼女のルーツも判るし、楽曲の普遍性も再認識できる。本作がメジャー・デビュー作となるそうで、本国アメリカでどのような評価がされるかが見ものだろう。さて?〈櫻井隆章〉



「アナベル」  
佐伯真梨

ラグマニア(Ragmania) XQCJ-1007  
¥2,500 6/8

■Disc 1「佐伯真梨トリオ」: 1.フラワーリー・ホーム 2.月夜 3.シャボン・ダマ 4.アンエクスベグテッド・ドリーム 5.アナベル 6.イン・アリー・オールド 7.スクイレルズ・ウォーク 8.旅情 9.シャイニー Disc 2「佐伯真梨作品集」: 1.ファンタジー 2.アフェクト「感化」 3.アフェクト「感化」 4.リッパル・波紋 5.ダイアローグ 6.ホワイト・キャンヴァス 7.インディケーション「晴し」 ■佐伯真梨(p)、坂崎拓也(b)、柴田亮(ds)、油田里花(vln)、影山朋子(marimba,vib)、大西康徳(vc)、佐藤美堂(ds)

## 音楽の二面性を体現させる 確信的な2枚組

2枚組で1枚はピアノ・トリオによるコンテンポラリー系ジャズ、1枚は異なる編成による現代系クラシックという、ユニークな構成のアルバム。大阪音大の作曲学科出身である佐伯真梨にとっては、クラシックの1枚がこれまで研究を重ねてきた音楽と自分の個性を対峙させる成果の意味合いが強いのだろうが、興味深いのはジャズ編で見せるリラックスした世界観だ。クラシックが「急」でジャズが「緩」とする彼女の音楽的コンセプトは、その対比があるからこそ彼女に刺激を与え続けているのだろう。だからこそピアノ・トリオに「ヒーリング風」以上の存在感を与える。月光の荘厳さをもつジャズ・ピアノは貴重だ。〈富澤えいち〉



「トシコ=マリア=ノ・カルテット ライヴ・アット・バードランド」  
秋吉敏子

スタジオソングス YZSO-10018  
¥2,200 5/11

1960、1961年NY「バードランド・ジャズ・クラブ」録音

■1.ディープ・リヴァー 2.ソング・オブ・ザ・ハート 3.ブルース・フォー・ファザー 4.ホエン・ユー・ミート・ハー 5.エレジー 6.ホエン・ジョニー・カムズ・マーチング・ホーム 7.チンパス・フューゼット 8.ブルース・フォー・ファザー ■秋吉敏子(p)、チャーリー・マリアーノ(as)、ジーン・チェリコ(b)、エディ・マーシャル(ds)

## NYバードランドでの秋吉カルテットの貴重な記録

日本が誇る秋吉敏子、チャーリー・マリアーノをフロントに迎えたカルテットによるライブ作。ラジオ放送と思しき音源で、これまでブート盤が出回ったことがあったが、アーティスト本人の許諾を得、晴れてリリースに至ったもの。双頭カルテット名義では60年12月録音のCandid盤が著名だが、60年4月(①~④)と翌61年10月(⑤~⑧)録音という本作も、脂ののった時期の演奏だけに内容については文句なし。「敏子」率いるカルテットではあるが、マリアーノをより前面に、四者の一体感溢れる演奏が聴かれる。なんとMCにはシンフォニー・シンドの代役で、あのメイナード・ファーガソンのしゃべりが……。〈原たかし〉



「ファズ・ジャズ」  
関根彰良

HARU RECORDS HARU-004  
¥2,100 5/5

■1.ファースト・ステップ 2.ダブル・ノックアウト 3.サムシング 4.ファズ・ジャズ 5.リメンブラン 6.イワイブリウム 7.ブレッシング 8.ソレア 9.プレリウド・トゥ・ア・キス 10.自転車音神楽関根彰良(g)、他

## 幅広い表現方法によって 独特の音楽性を生み出す

東大出身で、これまでにアヴィシヤイ・コーエン、前田憲男、向井滋春、村上「ボンタ」秀一などと共演してきたギタリストのリーダー作。ディストーションの効いたサウンドでロック・スピリット溢れる演奏を展開したかと思えば、クリア・トーンによるジャジーなアプローチだったり、またアコースティック・ギターでクラシックやフラメンコのタッチのプレイも聴かせるなど、幅広い表現方法をもっているギタリストだな、という印象を受ける。そういった様々な音楽性を、個性で貫くことにより、彼独特の音楽性を生み出している、という感じだろうか。ここから彼自身の音楽性がどういう形で結実していくのか、ということがとても興味深い。〈熊谷美広〉



「レッツ・ダンス」  
大野雄二&ルバン  
ック・ファイヴ

バップ (Lupintic) VPCG-84912  
¥3,000 5/25

■1.A.T.M. 2.あの日の絵画 3.シャッフル! 4.虎はサンバロ 5.セクシー・アドヴェンチャー 6.ゴイン・ホーム〜家路〜 7.鏡形ロック 8.ハーレム・ノクターン 9.ルパン三世のテーマ 10.A.T.M.〜エンディングVer〜 ■大野雄二(p)、井上陽介(b)、江藤良人(ds)、松島啓之(tp)、鈴木史郎(s)、和泉聡志(g)、ゲスト: 中納良恵(vo)2,9 from EGO-WRAPPIN)、土井敏之(from TBS RADIO Kakiin)

## オマケもタップリ 2度美味しいルバン・ジャズ

ルバンティック・ファイヴ結成5周年にして、昨年から参加している井上陽介が入った初のアルバムが、彼らのオリジナル作品としては2年ぶりに完成した。このバンドには、大野雄二の汲めども尽きぬオリジナル曲とアレンジのアイディアを味わうという軸がもちろんあるのだけれど、それ以上にリスナーをトコトン楽しませようとする彼のエンタ性がこれでもかと盛り込まれていて、それゆえに「企画もの」なのにレギュラー活動を続け、ジャズ・シーンの最前線バンドとして君臨しているわけなのだ。今回もいきなりTBS土井アナの「絶対調」に始まり、ゲスト・ヴォーカルはEGO-WRAPPINの中納良恵と、オマケ感が満載なのである。〈富澤えいち〉



「スカーレット」  
赤崎真由美

NEW VINTAGE RECORDS(CP ARTS) NVRC-2908  
¥2,800 5/14

2011年2月18~20日録音

■1.オン・ア・ワンダフル・デイ・ライク・トゥデイ 2.フィーフ・アー 3.ムーンダンス 4.クレイジー 5.マイ・フェイヴァリット・シングス 6.ザ・ウェイ・ユー・ルック・トゥナイト 7.ラヴ・フォー・セール 8.オールウェイズ・オン・マイ・マインド 9.ザ・ベスト・イズ・イット・トゥ・カム 10.オール・ザ・ウェイ 11.パイ・パイ・ラヴ ■赤崎真由美(vo)、水野修平(p.org)、上村健(b)、大坂昌彦(ds)、ランドール・コナーズ(as)、徳田史(b)、鈴木理恵(vln)、岩田彩子(vc)

## チャレンジャブルな性格で、ジャンルを超えて歌う意欲作

14年の活動歴がある赤崎の3作目。ラジオ番組でパーソナリティを務め、単身米ジャズ修行を重ね、その行動力は並々ならない。難易度の高いストリングス作品を作ったり、トロンボーン・トリオを組むなど、演奏活動でもチャレンジャブルな性格を垣間見せてきた。熟練歌手の深みと安定感あるハスキー・ヴォイス。ベギー・リーの妖艶さを備える②に、スリリングに歌い飛ばすヴァン・モリソンの③、ウィリー・ネルソンの④ではしっとりしたラウンジ風……多種スタイルによる純粋としたその発声も性格から来るもの。拍車をかける名手コナーズの硬質アルト・ソロはどれも見事だし、水野の弦アレンジは目からウロコも落ちる。〈長門竜也〉

2011年  
6月号  
(5/14発売)  
JAZZ  
LIFE